

「北大通周辺に緑地帯」「幣舞橋に新駅」

北大院生のまちづくり研究

空洞化改善へ大胆未来図



1500分の1のスケールの模型図を示しながら行われた北大学院生の発表

釧路市内のまちづくりを研究してきた北大学院工学研究院生が25日、釧路キヤッスルホテルでその成果を発表した。

「港と森がつながる」をキーワードに、学生たちが「北大通周辺を緑地帯にする」などの大胆な将来像を示したのは、現在の中心市街地が抱える問題点を意識したからだ。

(柳沢郷介)

メインストリートの街地のコンパクト化を北大通(釧路駅―幣舞橋南のロータリー)は、北大通周辺の緑地帯1250坪もあり、札幌から薄野地区までの距離に匹敵するほど長い。学生たちは中心部の空洞化と緑の少なさ、人口減を踏まえ、空き地となった地区の緑地化を進めながら市

釧路川について学生たちは、観光資源としての魅力を十分に生かしていないと見る。末広地区は川沿いの駐車場を国道44号沿いに移し、釧路川に向かって開放的な飲食店街を形成。入舟地区に市場や漁協を移設し、水産都市としての機能を集約するとともに、対岸とを人・自転車の橋でつなぎ、釧路川周辺の人の流れをつくるべきだという。

釧路市出身のメンバー野村武志さんは「この計画がそのまま実現するとは思わないが、人口減の中でどんなまちづくりを進めるべきか考えるきっかけにしてほしい」と話した。発表を聞いた釧路市の小松正明副市長は「広がったマチをコンパクト化するのには難しいが、空洞化した場所を森にするという提案にはヒントがある」と感想を述べた。

境系大学を誘致する未来図を描いた。



中心市街地の模型を使ってプレゼンテーションする大学院生

北大大学院生 街づくり提案

幣舞橋たもとに駅
「釧路らしさ」を

公開演習

釧路市の都市計画(中心市街地活性化案)を授業の一環として演習する北大大学院工学研究建築都市空間デザイン部門空間計画分野建築計画学研究室の学生が成果を発表する「北大大学院生演習 in 釧路」の公開演習が25日、釧路キャッスルホテルで行われ、釧路らしさを感じさせる街づくりとして、学生から釧

路駅を幣舞橋のたもとまで持つてくる大胆な提案が報告された。釧路根室圏まちとくらしネットワークフォーラム(宮田昌利座長)主催。

釧路川河口に「釧路らしさ」を感じる風景があふれていると着目した学生は、釧路川を挟んで入舟、大川町、末広町、耐震パース、幣舞橋―北大通

の五つのエリアに分けて計画。特に、釧路駅を出たとき「港町感がなく、北大通を幣舞橋まで歩くには長く、しかも交通量も多いと、釧路駅を特急に限り幣舞橋のたもとまで持つてくる計画を提案。駅舎に降り立つと釧路川が目に見え、飛び込み「釧路らしさ」を実感することができる。現釧路

駅から北大通を高架橋で縦断させ、6丁目までの両側2丁を森林エリアとし、新駅周辺は車交通を制限し、店舗の集約・オープンスペースを設け、人が歩いて楽しめるエリアとする。また、連動する耐震パースエリアは、美術館を核にパブリックアートや歴史や文化を語る広場としている。

同研究室の森傑教授は「中心市街地活性化は、今のトレンドに右習えではだめだ。ヨーロッパのように旧市街地として良いところがたくさんある。積極的な意味で旧市街地として取り組んでいかなければならない」と述べた。

公開演習終了後、関係者は釧路市役所へ赴き、蝦名大也市長に演習成果のポイントを報告した。(奥山哲也)